

## 『創造都市を創造する』

### 4 2. [地域再生] 特別連続シンポジウム『芸術都市キタを考える（5）』（2007年5月30日）

大阪市立大学大学院創造都市研究科

特別連続シンポジウム

『芸術都市キタを考える（5）ーキタ・ブロードウェイ化計画！ー』

【開催日】 2007年5月30日（水）6：30～9：00

【場所】 大阪駅前第2ビル6階・大阪市立大学文化交流センター大ホール

【参加自由、参加料無料、登録不要】

【開催趣旨】

大阪市は21世紀の課題の一つに、創造都市の構築を掲げています。

創造都市とは、学生、市民、NPOなどのアイデアや創造力で、新しい文化や産業が生まれてくる都市のことです。これからの都市は創造都市にならないといけないといわれていますが、そのときの鍵は、芸術・文化・アートの振興です。大阪でもクリエイティブ系の産業や機能が過半数集積しているキタ地域からの、創造都市としての活性化を考えてきた本シンポでは、今回は、海外の先進的システムを考えます。

アメリカ・ブロードウェイには、芸術・文化をビジネスとして成立させる先進的なシステムがたくさんあることが知られています。

空き席を当日割り引く、アメリカの合理性の塊り「チケッツ」システム、予約無しのハプニング・意外性も期待でき、簡単で、都市集客の大きな効果が期待できます。

国民の3分の1は演劇に興味があるのに小劇場のほとんどが週末一発公演のみのわが国、これではおもしろくても口コミでつたわる時には終わっています。ロングラン公演のシステムを用意することが重要。

ロングランは小さなところでリスクが小さい。ロングランのできる劇場は小劇場で、それは「オフ・ブロードウェイ」に用意すべきです。「NYのブルーマン」や東京の「シアター365」の例をご紹介します。

【プログラム】

開会挨拶 佐々木雅幸（大阪市立大学教授、重点研究委員長）

パネル討論（最初に各自説明、コメント、討論）

【パネリスト】

小原啓渡（大阪市立芸術創造館館長、アートコンプレックスグループ総括プロデューサー）

松原利巳（大阪市立芸術創造館副館長）

相内唯史（インディペンデントシアター劇場プロデューサー）

【コメンテータ】 「キタ・ブランド化の立場から」菅原正博（宝塚造形芸術大学）

【コーディネータ】 塩沢由典（大阪市立大学名誉教授・京都大学大学院経営管理研究科教授）

【司会】 小長谷一之（大阪市立大学創造都市研究科）

【主催】 大阪市立大学大学院創造都市研究科／大阪市立芸術創造館／

宝塚造形芸術大学大学院／デジタルハリウッド大学院大阪校／

マロニエファッションデザイン専門学校／ファッションビジネス学会関西支部

【協力】 大阪市北区

# 芸術都市キタを考える5 特別連続シンポジウム

## キタ・ブロードウェイ化計画!

**日時** 2007年5月30日(水)  
午後6時半から9時まで

**会場** 大阪市立大学文化交流センター・大ホール  
大阪駅前第2ビル6階

(参加自由、参加料無料、登録不要)

大阪市は21世紀の課題の一つに、創造都市の構築を掲げています。創造都市とは、学生、市民、NPOなどのアイデアや創造力で、新しい文化や産業が生まれてくる都市のことです。これからの都市は創造都市にならないといけないといわれていますが、そのときの鍵は、芸術・文化・アートの振興です。大阪でもクリエイティブ系の産業や機能が過半数集積しているキタ地域からの、創造都市としての活性化を考えてきた本シンポでは、今回は、海外の先進的システムを考えます。

アメリカ・ブロードウェイには、芸術・文化をビジネスとして成立させる先進的なシステムがたくさんあることが知られています。(1)空き席を当日割り引く、アメリカの合理性の塊り「チケッツ」システム、予約無しハブニング・意外性も期待でき、簡単に、都市集客の大きな効果が期待できます。(2)国民の3分の1は演劇に興味があるのに小劇場のほとんどが週末一発公演のみのわが国、これではおもしろくても口コミでつたわる時には終わっています。ロングラン公演のシステムを用意することが重要。(3)ロングランは小さなところでリスクが小さい。ロングランのできる劇場は小劇場で、それは「オフ・ブロードウェイ」に用意すべきです。「NYのブルーマン」や東京の「シアター365」の例をご紹介します。

### プログラム

○ 開会挨拶 佐々木 雅幸 大阪市立大学創造都市研究科教授重点研究委員長

○ パネル討論 最初に各自説明(15分×3人=45分、コメント10分、討論60分)

○ コーディネータ 塩沢 由典 大阪市立大学名誉教授・京都大学大学院 経営管理研究科 教授

### ○ パネリスト

(1) 小原 啓渡 大阪市立芸術創造館館長アートコンプレックスグループ総括プロデューサー

(2) 松原 利巳 大阪市立芸術創造館副館長

(3) 相内 唯史 インディペンデントシアター劇場プロデューサー

○ コメントータ 菅原 正博 宝塚造形芸術大学 デザイン経営研究科長 教授

○ 司 会小長谷 一之 大阪市立大学創造都市研究科 教授

### 問い合わせ先

大阪市立大学大学院 創造都市研究科 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138  
TEL.06-6605-3507 FAX.06-6605-3488

ホームページアドレス <http://www.gsccl.osaka-cu.ac.jp/>



Graduate School for Creative Cities  
Osaka City University  
大阪市立大学大学院  
創造都市研究科

# 芸術都市キタを考える5 特別連続シンポジウム

## キタ・ブロードウェイ化計画!



Graduate School for Creative Cities  
Osaka City University

大阪市立大学大学院  
創造都市研究科

日時 2007年5月30日(水) 午後6時半から9時まで

会場 大阪市立大学文化交流センター・大ホール 大阪駅前第2ビル6階  
(一般参加自由、参加料無料、参加登録不要)

### PROFILE



塩沢 由典(大阪市立大学名誉教授・京都大学大学院 経営管理研究科 教授)

専門は、理論経済学。1985年から複雑系の経済学を提唱、制度進化や経済の発展過程の研究に複雑系の視点を導入した。現在、進化経済学会会長、人工市場研究グループU-Mart代表、関西ベンチャー学会会長。大阪・関西の活性化に向けて、ベンチャー・研究開発・情報発信・頭脳機能などに関し多様な提言を行なっている。大阪市北区を創造都市としてプロモートする「扇町創造村」(仮称 構想に取り組んでいる。著書に、『創造都市への戦略』(晃洋書房)、『創造村をつくらう!』(晃洋書房)、『市場の秩序学』(筑摩書房、サントリー学芸賞受賞)、『複雑さの帰結』(NTT出版)、『複雑系経済学入門』(生産性出版)などがある。



小原 啓渡(大阪市立芸術創造館館長、アートコンプレックスグループ総括プロデューサー)

兵庫県出身。1999年、「アートコンプレックス1928」を立ち上げ、プロデューサーに就任。劇場プロデュースの他、投資家から出資金を集めて公演を行なう「文化支援ファンド」の設立、長期滞在アーティストのための宿泊施設「AIR京都」の運営、大阪の造船所跡地のアートスペース「クリエイティブセンター大阪」への再生等、芸術環境の整備に関わる活動が続ける。2006年より大阪市立芸術創造館館長。アートコンプレックスグループ総括プロデューサー、クリエイティブセンター大阪プロデューサー、リッジクリエイティブ(株)代表取締役、アートサポート代表、アーティスト・イン・レジデンス京都代表、NPO法人ダンスボックス理事、京都精華大学非常勤講師、関西文化元気圏ニューパワー賞・尾宮賞受賞、著書に『クリエイター50人が語る創造の原点』(論創社)ほか。



松原 利巳(大阪市立芸術創造館副館長)

1951年北海道生まれ、大阪の情報誌の草分け「プレイガイドジャーナル」に参加。演劇欄を担当をしながら、黒テント、状況劇場、つかこうへい事務所、東京ヴォードヴィルショー、「上海バンスキング」第七病棟などの大阪公演をプロデュース。阪急ファイブ8階にオープンしたオレンジルームのプロデューサー故中島陸郎氏とともにオレンジルーム演劇祭を企画。近鉄劇場・扇町ミュージアムスクエア(OMS)のコンセプトをつくる。近鉄劇場・近鉄アート館のプロデューサーやOMS・神戸アートビレッジセンター企画委員を兼務。びわ湖ホール芸術アドバイザー。大阪MBS劇場 現シアターBRAVA!のリニューアルオープンプロジェクト参加。大阪・アジアアートフェスティバル総合プロデューサーなどをへて、2006年大阪市立芸術創造館副館長。その他、大阪城サマーフェスティバル総合プロデューサー、国際児童青少年演劇フェスティバル大阪総合プロデューサーなど。



相内 唯史(インディペンデントシアター劇場プロデューサー)

1977年北海道札幌市生まれ。大学進学で関西へ。在学中は映像や音楽イベントに多数関わり、2000年インディペンデントシアター劇場プロデューサー就任。一人芝居フェス「INDEPENDENT」や和室共通舞台美術による9劇団39日間のロングランプロデュース「極-KIWAMI-」舞台衣装デザイナーによるファッションショー「Body&Clothes」等、挑戦的でコンセプチュアルな劇場プロデュースを企画。演劇畑出身でない特異な経歴と斬新なアイデア、フットワークの軽さで注目され、クリエイターとしても映像や宣伝美術で様々な劇団・作品に参加。関西の某ライターからは「止まると死んじゃう生き物」とコピーを付けられた。現在は、今年7月に開催される、2劇場で2つの物語が連動し、日本橋の街自体が劇場と化す、前代未聞の劇場プロデュース「#10」で東奔西走中!



菅原 正博(宝塚造形芸術大学 専門職大学院 デザイン経営研究科長)

専門はマーケティング。1990年ごろから、感性工学を基盤にしたデザイン・マーケティング論の体系化に取り組んできた。1990年代後半に入って、マーケティング論からブランディング論への変容を提言し、消費者文化論に基点を置く都市ブランディングの実証研究に取り組み始めたところである。その一環として、感性リッチ型生活文化を背景に持つ梅田沿線を対象に研究を進めつつある。

問い合わせ先

大阪市立大学大学院 創造都市研究科 TEL.06-6605-3507  
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

FAX.06-6605-3488  
<http://www.gsc.osaka-cu.ac.jp/>